

経済・金融 フラッシュ

6月日銀決定会合： 2ヶ月連続の景況感の上方修正

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 2ヶ月連続での景況感の上方修正：ただし、先行きの慎重さに変化なし

日銀は16日の金融政策決定会合で、景気の現状判断を5月の「悪化を続けている」から「大幅に悪化したあとに下げ止まりつつある」に2カ月連続で上方修正した(次項参照)。上方修正は、輸出・生産が持ち直しに転じつつあることが要因となっている。

また、先行きについても「当面は、こうした景気下げ止まりの動きが次第に明確になっていく可能性が高い」と5月の「悪化のテンポが徐々に和らぎ、次第に下げ止まっていく可能性が高い」から上方修正している。

ただし、この上方修正について白川総裁は、4月末に公表した展望レポートの見通しに沿った動きで従来見通しを修正したわけではないと説明している。

また会見で底入れ判断かとの質問に、「①内外の在庫調整の進捗、②極端な不安心理の後退、③内外で積極的な財政、金融政策が実施された。しかし、この3つはそれ自体として、先行きの自律的な民間需要の回復を保証するものではない。内外の在庫調整が終わった後の最終需要の動向がポイントになるが、その点について日銀は慎重に判断している」と述べている。先月同様先行きについてはかなり慎重なスタンスであることに変化はなさそうだ。

2. 9月末期限の異例な措置：8月決定会合までには「延長」が決められるのでは、

今回の総裁会見で9月末に期限が切れるCPと社債の買い入れ、企業金融支援特別オペなど、一連の企業金融支援についての言及があった。

企業金融について、総裁は会見で「1-2月前と比べれば格段に良くなっている。足元では社債の発行ラッシュという状況にもなってきている。ただし、BBB格の社債はほとんど発行されておらず、2極化という状況も見られる。高格付けのCP金利が国債金利を下回る逆転現象という歪みは個々の市場では見られるが、企業金融全体の改善を図るために、そうした現象が現在起きていても、最終的には企業金融全体で判断しなければならない」と述べている。

延長するかどうかの議論となるのがCPと社債の買い入れだろう。筆者は異例の措置をやめた場合の影響が大きいと現時点では判断しているように感じるし、景気の先行きに対して慎重なスタンスであることもあわせて考えると延長される可能性が高いと予想する。

日銀 景気判断・見通し(黄色は上方修正を示す)

	現状
2009年6月	景気は大幅に悪化したあとに下げ止まりつつある。
2009年5月	景気は悪化を続けているが、内外の在庫調整の進捗を背景に、輸出や生産は下げ止まりつつある。
2009年4月	
2009年3月	
2009年2月	
2009年1月	景気は大幅に悪化している。
2008年12月	景気は悪化している。
2008年11月	景気は、既往のエネルギー・原材料価格高の影響や輸出の減少などから、停滞色が強まっている。
2008年10月	景気は、エネルギー・原材料価格高の影響や輸出の増勢鈍化が続いていることなどから、停滞してい
2008年9月	
2008年8月	景気は、エネルギー・原材料価格高や輸出の増勢鈍化などを背景に、停滞している
2008年7月	景気は、エネルギー・原材料価格高の影響などから、さらに減速している
2008年6月	
2008年5月	
2008年4月	景気は、エネルギー・原材料価格高の影響などから、減速している
2008年3月	景気は、住宅投資の落ち込みやエネルギー・原材料価格高の影響などから減速しているが、基調としては緩やかに拡大している
2008年2月	
2008年1月	
2007年12月	景気は、住宅投資の落ち込みなどから減速しているとみられるが、基調としては緩やかに拡大してい
2007年11月	
2007年10月	
2007年09月	
2007年08月	
2007年07月	
2007年06月	
2007年05月	
2007年04月	
2007年03月	
2007年02月	
2007年01月	
2006年12月	
2006年11月	
2006年10月	
2006年09月	
2006年08月	
2006年07月	景気は、緩やかに拡大している。
2006年06月	景気は、着実に回復を続けている。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。